



ぼんぼん・青山様

特集



● ぼんぼんの由来

お盆に行われる子ども行事「ぼんぼん」とは、未就学児や小学生の女の子が浴衣を着て、下駄を履き、花紙で作ったぼんぼん飾りを頭につけ、提灯を手にぼんぼんの歌を歌いながら町会内を練り歩くものです。松本では男の子の「青山様」と同時期に行われています。平成4年に松本市重要無形民俗文化財、平成13年に長野県選択無形民俗文化財へ指定されました。

この行事の起源は明らかになって

● 青山様の由来

「ぼんぼんと青山様」とひとくくりに紹介されることが多いのですが、ぼんぼんは江戸時代の中頃までは江戸や尾張でも行われていた行事であるのに対し、青山様は明治になって始まった松本独自の行事です。

その目的は、ぼんぼんのための勧進で、賽銭を集めるのが本来の役割です。一般的には「盆勧進」と呼ばれ、盆釜に用いる食料を得るため、子どもたちが家々をまわって米や銭をもらい集めるのと同じです。盆釜というのは、屋外に竈を築いて、川

いません。しかし、江戸時代初期のころから京都、江戸、大阪、名古屋にも似た行事があり、

それらが複数の街道が交差する松本にも伝わったのではないかと、という説があります。松本では、江戸時代末期ころから親町三町（本町、中町、東町）を中心に始まり、次第に新興住宅地でも行われるようになっていきました。しかし、高度経済成長期を経て、職住分離による人口の減少、自動車交通量の増加などが影響し、旧城下町の130弱の町会で行われていた行事は、いくつかの町内で行われる程度に減少しました。



に流されたお盆のお供えを煮たきして食べる行事です。松本でも青山様で集めた賽銭で、送り盆の日に子どもたちが集まり、五目飯を炊いて食べたといえます。盆釜の行事食が五目飯とされるのは、正月の雑煮と同様に、供え物をすべて一緒に炊き込んだことを表しています。



『松本歳時記』より引用

ぼんぼんの歌詞

- 一、
盆々とても（あるいは立てよ）
今日明日ばかり、
あさては山（あるいは嫁）の
しほれ草（あるいはしなれ草）
しほれた草を、やぐらに載せて、
下から見れば、牡丹の花、
上から見ればなさけの花よ、
牡丹の花は、散つても咲くが、
なさけの花は、今日ばかり。
- 二、
今年の盆は、盆とも思わぬ、
紺屋は焼ける屋形は焼ける、
盆帷子は色褪める、
白でもないが、紺でもないが、
浅黄に染めて、ちゃんと着るく。
- 三、
あの山陰で、光る物は何ぢや、
月か星か、蛍の虫か、月でもないが、
星でもないが、姑の御婆の目が光る。
- 四、
土井尻（あるいは袋町）やいやよ、
土井尻（あるいは袋町）やいやよ、
人形の首が、二つにわれて、
中からお化け出ておどす。
- 五、
中町やいやよ、中町やいやよ、
あのやの首が、二つに割れて、
中からお化けが出て来る。
- 六、
一丁目越して、
二丁目越して、
三丁目の生坂や、
いくさか様へ
とび込んで見たら、
黄金の花が、咲きそろふた。
- 七、
ここの町が、海ならよから、
千石船に団十郎をのせて、
隅から隅へ曳きまわす。
- 八、
神とうはいよいよ、
神とうはいよいよ、
水茶やだらけ、
提灯だらけ、
かぞへて見れば、
百七つかぞへて
見れば百七つ。

『松本市史昭和八年』より引用



(杉江 夏実)

ぼんぼんの歌詞は多くのバリエーションがあり、今日まで少しずつ変化しながら歌われて来ました。特徴的な歌詞に、「〇〇はいやよ、〇〇はいやよ」と町会名を入れて歌う部分があります。町会内を練り歩く中で、向こうからやってくる他の町会のぼんぼんの列に負けないように声を張り上げてぼんぼんの歌を歌い、相手の町会が判明すると歌詞に混ぜてからかったそうです。現在、公民館で配られる歌詞カードには他町会をからかう歌詞は削られています。行事を保存する運動の中で、子どもにも悪口を言うような歌を歌わせたくない、という大人の思いがあったのではないかと考えられます。

参加した小学校6年生の子どもたちの声

この行事では、みんなで歌いながら足が棒になる程歩いたが、祭り用チケットをもらえて嬉しかった。友達と屋台でお腹いっぱい好きな物を食べて遊んだ。出店では、中学生が手伝いをしていて興味を持った。

守屋 美里 さん

私は、青山様ぼんぼんに参加したのは今年で3回目です。最初は、ぼんぼんの歌の歌詞が少し難しかったけれど何度も練習して好きになりました。夏祭りではスーパーボールすくいや花火をして、とても楽しかったです。

小松 夢真 さん

ぼんぼんは、足が少しつかれたりもしたけど、えん日は、たくさんの屋台をまわってすごく楽しかったです。花火は、私は今回初めてやりましたが、すごくきれいで安全だったので、最高に楽しめました。最後の青山様ぼんぼんは、最高に楽しかったです。

荻原 遥香 さん

ぼくは、青山様をやった地域の人がおさいせんにお金を入れている時や、おみこしが来た時に笑ってくれた時に、地域から愛されている行事なんだな、と思いました。

ぼくは6年生なので、来年から参加できないけれど、協力して下さる地域の方の力を借りながら、子ども会みんなでこれからも青山様を残していってほしいです。

原 優介 さん

長元坊 チョウゲンボウ

「夏の思い出」

今年も中央地区縁日で子どもたちのぼんぼん青山様を見ることができました。

私も八十路を過ぎ、もう七十年も昔の話ですが思い出します。昔は町内の子どものが多く、小学校1年生から6年生まで、男子は青山様、女子はぼんぼんで列を作って、氏神様にお参りにお盆の13日から16日まで毎晩行きました。私の町内は天神様です。他の町内も来ますから、境内は大変賑やかでした。

男子はハッピーに豆絞りのハチマキ、新しい杉葉のこんもり入った御神輿を担いで「青山様だい、ワッショイコラショ」と声を張り上げ、家々からお賽銭を頂いていました。

女子はゆかたにさんじゃくのたすきをして、頭には花紙で作ったたりぼんをつけ、提灯にロウソクの火を灯して持ち、ぼんぼんの歌を歌いながら、天神様に向かいました。

「ぼんぼんとても今日明日ばかり、あさってはお嫁のしおれえ草、しおれた草をやぐらに載せて、下からお見ればぼんぼんの花、ぼんぼんの花は咲いても散るが、なさけのお花は今ばかり、情けのお花ホイホイ」



「八百屋の前でナスの皮拾ってお松さんもおおいで小竹もおいで、ままごとしましょホイホイ」「六九はいやだ六九はいやだ、ロクロクロクビが二つに割れて、中からおぼけホイホイ」

何だか訳のわからない歌ですね。誰に教えてもらってもなく、6年間に自然に覚えました。歌はまだあったと思いますが、この位しか思い出せません。テレビのなかった頃の夏休みの楽しみは、ぼんぼん青山様町内の盆踊り。

盆踊りの最終日には、仮装して踊りました。それに高校野球。何だか時間がゆっくり流れていたような懐かしい思い出です。

(澤田 昭子)